



まちづくり懇談会の清音会場では55人の参加があった

貴重なご意見を多数いただきました

諮問機関の総合計画審議会

市では、総合計画などに関する調整や審議をしていただくための市長の諮問機関として「総社市総合計画審議会」を設置しています。この機関は、清水男会長（総社商工会議所会頭）をはじめとする、関係団体や有識者ら20人によって構成されています。昨年8月31日の1回目の会議では、策定要領、今後の策定スケジュールやアンケート調査などが話し合われました。

9月14日から30日にかけては市民アンケート調査を実施。これは20歳以上の市民の中から無作為抽出した合計5400人を対象として行われました。回答率は47.2%でした。その中間報告は、6、8ページのとおりです。

県立大教授らと懇談

新総社市のまちづくりの指針となる「総合計画」の策定に向けて、9月30日に岡山県立大学の教授らを紹介

いて懇談会を開催しました。同大学からは保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の学部長や教授らの8名が出席しました。

大学側からは、「市民は、安全、安心して暮らすための福祉や医療を望んでいる。ソフト面で大学からの支援は可能」「山間部と都市部を支えあう介護システムが必要。今後元気な高齢者にどのように活躍していただくか考える必要もある」「パソコンなどの操作性は将来は格段に向上する。小中学生には、50年経っても朽ちない国語力、計算力など基本的な知識をしっかりと学んでほしい。ITの操作技術はその後で十分」「まちづくりは商業が大事。イオン倉敷ショッピングセンターのようなオープン型の商業地域ができないか」「市の理念を視覚的にわかりやすくPRするコミユニケーションマークを作成してはどうか」などそれぞれの専門的立場から意見をいただきました。



市民団体との懇談会では、実活動にもとづく貴重な意見をいただいた



県立大学との懇談会では有識者ならではの見地から意見をいただいた



総合計画審議会で会長に選任された清水男商工会議所会頭のあいさつ

各種市民団体代表者との懇談

10月11日、14日の両日に、商工、スポーツ、農業、観光、文化、福祉、環境など各分野の関係者を招き、懇談会を行いました。商工会議所や体育協会、農業後継者クラブなど2日間延べ52団体78人が出席しました。出席者からは「商業や工業をいかに興し、観光を点から線へ、線から面へつなぐかが大事」「生涯スポーツの活性化で医療費の削減につなげていきたい」「給食に市内で取れたものをもっと使って欲しい」「新規就農者へ何らかの助成を」「鬼ノ城が工事中だが、整備を早めて早く公開を」「眠っている観光資源の掘り起こしが必要」「学童保育の整備を早急に」「総社を音楽で特色あるまちにしたいので音楽専門ホールを」「障害者を施設だけでなく地域でもサポートして欲しい」「都市計画道路の整備が進んでいるが、タバコのごみが非常に多い、禁止条例などができないか」「総社市に憩いの場として美術館が欲しい」などさまざまな意見が出されました。

市内6か所で住民と懇談会

各種懇談会に引き続き、11月12日、13日、20日の3日間にわたって市民との懇談会「まちづくり懇談会」を

行いました。東公民館をはじめ、清音公民館、昭和公民館、西公民館、山手公民館、市図書館の6か所の会場に、延べ254人の市民の皆さんが参加しました。それぞれの会場では、市幹部職員からの計画策定の趣旨や基本方針の説明後、約2時間にわたって懇談が行われ、幅広い分野からの要望や質問が相次ぎました。

延べ125件の要望や質問のうち多かった分野から順に、道路（12件）、生涯教育（12件）、地域づくり（9件）、農林業（7件）、防災・治安（6件）、病院・医療（5件）と続きます。

「道路」については、車道の改良や拡幅、新設などの要望や危険箇所指摘などがあげられ、「生涯教育」については、公民館分館の改修要望やスポーツ施設の使用料免除、生涯スポーツへの助成、情操教育の重要性などが述べられました。「地域づくり」については、雪舟を核としたまちづくりの推進や地域が主体性をもつことの意義などの意見があげられ、「農林業」については、後継者問題や農林業の基盤整備の重要性などが述べられました。「防災・治安」については、災害時の連絡方法の確認、通学児童などの安全確保の重要性などがあげられ、「病院・医療」については、救急医療施設整備への取り組みなどの質問がありました。